

2.2 地盤条件

2.2.1 土質調査の概要

土質調査の実施箇所の概要を図 2.2-1、土質調査の基本的な考え方を表 2.2-1 に示す。

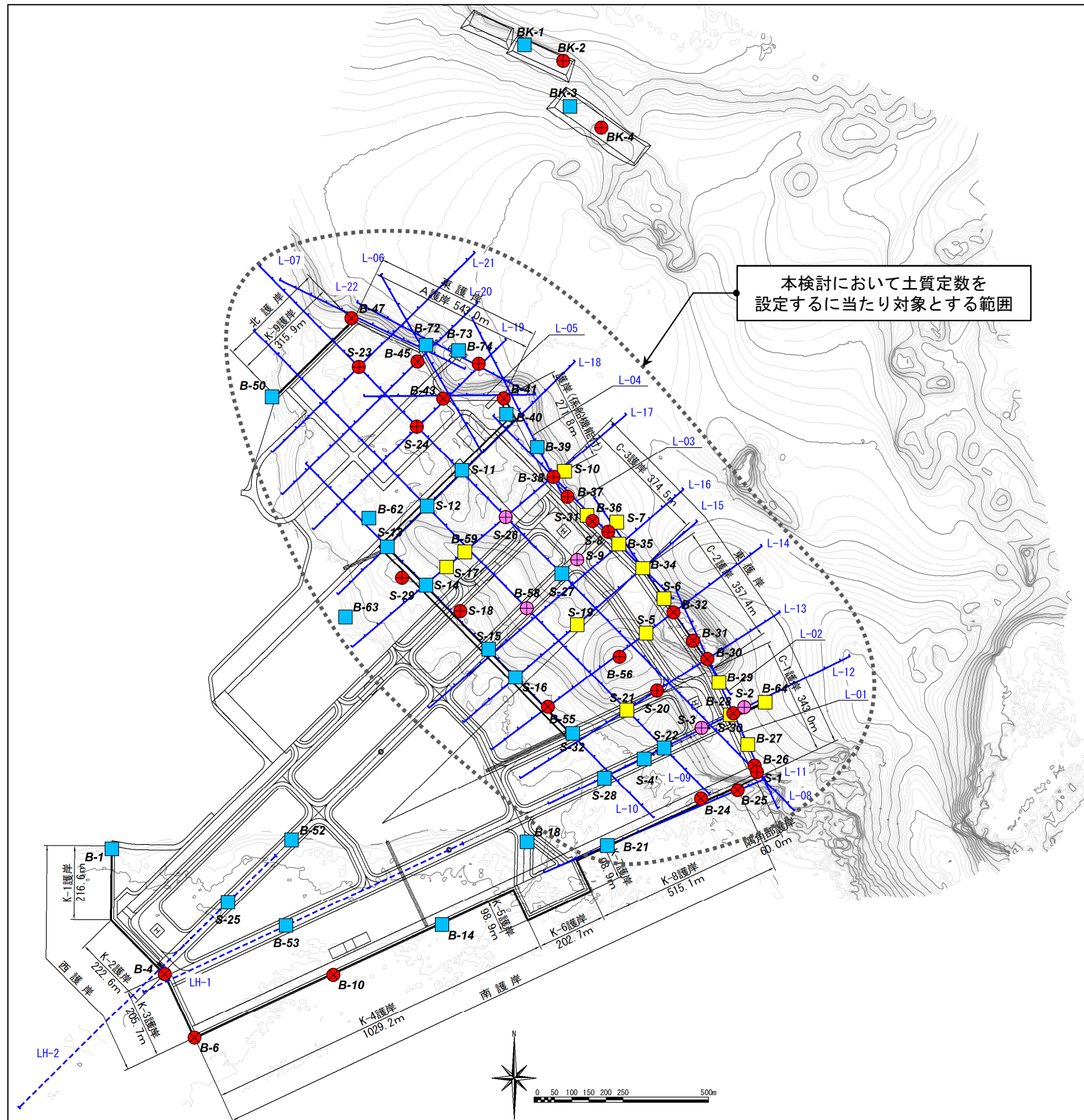


図 2.2-1 土質調査の実施箇所

表 2.2-1 大浦湾側の土質調査の基本的な考え方

■土質調査の基本的な考え方				
<ul style="list-style-type: none"> 護岸法線、海底地形を基に設定した図2.2-2に示す各調査エリアの両端部、中央部付近及び法線変化点等を対象として調査地点を設定し、土質調査を実施した。 土質調査地点間の地層の成層状態を把握することを目的として音波探査を実施した。 土質調査地点間及び音波探査において、地層境界が不明瞭な箇所の把握等を目的として、更なる土質調査を実施した。 				
■土質調査の内容				
分類	凡例数量	サンプリング	室内試験	サウンディング
ボーリング	● (29地点)	乱れの少ない試料 (3m毎に1m)	物理試験 力学試験	N値 (3m毎に2回)
		乱された試料 (3m毎に2m)	物理試験	
	● (5地点)	乱れの少ない試料 (1m毎)	物理試験 力学試験	—
	■ (27地点)	乱された試料 (1m毎)	物理試験	N値 (1m毎に1回)
CPT※	■ (15地点)	乱された試料 (4m毎に1m)	物理試験	CPT (4m毎に3回)
音波探査	—	—	—	—
弾性波探査	—	—	—	—

※「港湾の施設の技術上の基準・同解説（平成30年5月）」P.332より以下抜粋
 「調査地点間のデータを補間するために多くの地点を必要とする場合等には、より簡便に調査を実施できる電気式コーン貫入試験は、有用な調査手法となる。」